

北日本新聞八月六日一面の

「被爆体験 伝えねば」の記事を読ん

二年 杉谷 望来

八月六日。若い人はこの日が何の日か知ら

ない人が多いただろう。

八月六日の新聞を見た私は「被爆体験

伝えねば」73歳 最後の世代だからとい

う代名の記事が目に入った。そう、今日は広

島の原爆が落とされた日である。私はあまり

原爆について知っていたなか。たので、興味を

もった。この記事を読んでみることにした。

飯田國彦さん七十三歳は、三歳のときに爆

心地から1キロ足らずのところまで被爆した。

三歳のときのことなのに、その記憶は脳裏に

焼きついていると書いてあったり、お母ち

ゃん、助けると叫ぼうとして、も声が出な

ったり、皮膚が垂れ下がった人たち、幽霊

のよう歩いていく地獄のような光景が広が

っていたと書かれた文章が、どこだけ怖い

験だ。たのかを強く私の心に伝えた。私は今  
まで深く原爆について考えていなかっただから、  
物語ではない、この本当の原爆の恐ろしさか心に  
響いたのだ。三歳の飯田さんほ、きくとあた  
りまえのようには家族と普段と同じように過ご  
していて、そして一瞬にして何もかもを失っ  
たのだ。そう考えると胸が苦しくな、た。も  
し、今、原子爆弾が落とさぬたら？一瞬にし  
て大切なものを何もかも失、てしま、たら？  
考えるほど、今がどこだけ平和であるかを強  
く知、た。広島の前爆では約14万人の方々が  
七くなり、そして今でも放射線によるガンの  
病気や健康不安に苦しんでいる人がたくさん  
いる。原爆は、一瞬にしてたくさん人の命  
をうばい、そして苦しめたのだ。戦争の恐ろ  
さを強く私に伝えた記事だ、た。しかし、私  
はまだまだわしく戦争について知、たわけでは  
ない。そして、私以外にも原爆や戦争をよく  
知らないという人がたくさんいる。私たちが以  
上に苦ししい思いを味わ、た被爆者、戦争体験

者の方々のこと、原爆や戦争を私たちが知り  
ないままではよいのだろうか。平和とは本当は  
何なのか気がつかないままではよいのだろうか。  
私はこのままではいけないと思う。過去の経  
験も知り、次へ生かしていかなくてはならな  
いと思っただからだ。私たちの若い世代が原爆  
や戦争について知り、そして未来へと語りつ  
いでいかななくてはならないと強く思った。  
原爆の記事は、私にたくさんのお話を伝え  
てくれた。そして、原爆や戦争について、も  
っと知りたいと思うことができた。来年、私  
は修学旅行で広島に行くので、そのときにも、  
たくさんのお話を学んできたと思う。そして  
こゝ今度には私が原爆や戦争の悲惨さを伝え、  
少しでも平和な未来にしていける、そんな存  
在になりたいと思った。